

## Q8

日本脳炎の患者発生の推移について教えてください。

## A

わが国では、昭和41年（1966）頃までは年間1,000人を超える患者発生があつて、致死率も30～50%と高いものでした。その後の患者発生数は激減し、昭和47年（1972）以降では100人未満となり、近年では毎年10人未満が西日本を中心に発生するに留まり、平成12年（2000）の日本脳炎確認患者は7名、平成13年（2001）は5名、平成14年（2002）は8名、平成15年（2003）は1名、平成16年（2004）は5名、平成17年（2005）は7名、平成18年（2006）は7名、平成19年（2007）は9名でした。平成20年（2008）は8月現在1名です。平成12年（2000）から平成20年（2008）8月までの約8年半に報告された日本脳炎確認患者の地域別報告数は、北海道・東北地方0名、関東地方2名、中部地方6名、近畿地方3名、中国地方17名、四国地方4名、九州・沖縄地方19名となっています（国立感染症研究所感染症情報センターHP日本脳炎Q&A <http://idsc.nih.gov.jp/disease/JEncephalitis/QAJE/fig08.gif> 参照）。

日本脳炎ウイルスは毎年行われているブタの抗体調査によって、西日本を中心に侵淫が認められています。患者発生は減少し、低流行状態となっています。要因として、

- ① 小中学生を中心に日本脳炎ワクチン接種率が高い水準にあること
- ② 水田の減少と稲害虫駆除により蚊が減少したこと
- ③ 生活環境の改善により蚊に刺される機会が減っていること

などが考えられます。

日本以外のアジア諸国における流行の推移は、韓国では昭和63年（1988）のオリンピック開催に向けて日本脳炎ワクチンを大規模に接種した結果、昭和56年（1981）以降患者は激減しました。中国でもワクチ

ン接種をすすめた結果、患者数は次第に減少していますが、平成15年（2003）、中国南部で多くの日本脳炎患者の発生と死亡が報告されています。中国の他にもアジアにおけるいくつかの国では、日本脳炎の流行が大問題となっています。たとえば、ベトナム、タイ、ネパール及びインドでは現在でもしばしば数千人規模の流行が認められており、日本脳炎予防対策が急務となっています。これらの国々の患者増加は、人口の増加と水田開発、養豚振興などの施策と関連しているといわれています。